

# ひるまだより

〒190-0012 立川市曙町1-36-1 曙第3ビル2F  
 TEL=042-526-3376 HP=<http://www.hiruma.or.jp/>  
 E-mail=clinic-contact@hiruma.or.jp

OPひるま歯科 矯正歯科  
 OP Hiruma Dental Clinic

2月						
日	月	火	水	木	金	土
					02	03
				休	休	10
休	05	06	07	休	休	16
11	休	13	14	休	16	17
休	19	20	21	休	23	24
25	休	27	28			

3月						
日	月	火	水	木	金	土
					02	03
				休	休	09
休	05	06	07	休	休	16
11	休	13	14	休	16	休
18	19	20	休	22	23	24
25	休	27	28	休	30	31



患者さんインタビュー43 Fさん  
 歯並びが原因のトラブル……  
 矯正治療ですべて解決しました  
 インタビュの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページに掲載しています。

◆矯正治療を始めたきっかけを教えてください。  
 —小さい頃から下の前歯がデコボコに生えていて、歯医者さんから「将来のためには、矯正治療をして歯並びを治したほうがいいですよ」と言われたのです。でもそのまま時間が過ぎてしまい、30歳になったころ歯並びが原因と思われるトラブルが少しずつ出てきました。食事の時に顎がはずれやすくなったり、話している時に舌を噛んでしまうことが多くなったりして、やっぱり矯正治療を受けた方がいいかもしれないと考え始めました。

◆OPひるま歯科矯正歯科で治療を受けようと思ったのはなぜですか。  
 —矯正専門の先生にしっかり診てもらえるという安心感から、OPひるま歯科矯正歯科で治療を始めることに決めました。実際に治療が始まると、ワイヤーを装着する前に歯茎の炎症をおさえましょうと説明を受けました。治療のスタートは歯石の除去からだったのですがこれが結構痛くて……（笑）。でも歯みがきの仕方を教わり、口

◆ご家族の反応はいかがでしたか。  
 —治療が終わった時、息子が「すごくきれいになったね」と言ってくれました。思春期なのでクールな言い方でしたけど（笑）、嬉しかったです。

◆歯並びがよくなってきたことを実感したのはいつ頃ですか。  
 —下の前歯がワイヤーをつけ始めてすぐの段階でまっすぐに並んできたのです。舌で歯の内側をさわったときに、歯がきれいに並んでいることがわかって嬉しかったですね。ずっとデコボコの歯並びだったのに、ワイヤーをつけるだけでこんなにすぐに動くものなんだという驚きも大きかったです。

◆矯正治療を始めたきっかけを教えてください。  
 —小さい頃から下の前歯がデコボコに生えていて、歯医者さんから「将来のためには、矯正治療をして歯並びを治したほうがいいですよ」と言われたのです。でもそのまま時間が過ぎてしまい、30歳になったころ歯並びが原因と思われるトラブルが少しずつ出てきました。食事の時に顎がはずれやすくなったり、話している時に舌を噛んでしまうことが多くなったりして、やっぱり矯正治療を受けた方がいいかもしれないと考え始めました。



OP ひるま歯科 矯正歯科  
 院長 晝間康明

## Fさんの症状について解説します

成人の叢生を伴う上顎前突症例  
 初診時の診断：上突咬合 叢生歯列弓 下後退顎

初診時



動的治療開始時



動的治療終了時



側貌

アンカースクリュー使用時



Fさんは初診時、側貌において口唇の顕著な突出感を認め、オトガイ部の後退感は強く口唇閉鎖時にオトガイ部軟組織の緊張感を認めました。また上下顎前歯の前後的なズレが大きく約6mm、前歯部の叢生を認めました。一般歯科的問題点として、小白歯から大白歯にかけてインレーが装着されており、全顎的な歯肉の腫脹と発赤を認めました。MTMの診療プロセスに則り初期治療により、歯のみが残り、歯肉炎の改善後、矯正治療を開始することとしました。

矯正治療の方針は、上下顎骨のズレが大きく上顎前歯を最大限に後退させる必要があると考え、抜歯部位を上左右4番、下左右5番とし、上顎大白歯の加強固定としてアンカースクリューを使用することとしました。動的治療終了時、側貌における口唇の突出感および口唇閉鎖時の緊張感は軽減し、上下顎前歯の前後的なズレおよび叢生は改善され、白歯関係もアングルI級で安定しました。

Fさんの症例は上顎前歯が唇側に傾斜することで上唇ではなく下唇の突出感に影響を与えていました。従って上顎前歯を後退したことで下唇の後退量が大きくなりました。成人でも治療は可能ですが、う蝕や歯周病のリスクを下げずに矯正治療を開始した場合は装置装着とともに歯がみがきにくくなり、う蝕や歯周病が進行する可能性も考えられ、MTMに則った治療プロセスの必要性を再確認しました。